

2019 市勢要覧

「人と自然が織りなす しあわせ交流都市 とうみ」



～人と自然が織りなす しあわせ交流都市 とうみ～

■東御市の概要

東御市は、長野県の東部に位置し、北は上信越高原国立公園の浅間連山を背にし、南は蓼科、八ヶ岳連峰の雄大な山並み、島崎藤村が詩に詠んだ千曲川と鹿曲川の清流が織りなす豊かな風土と歴史に恵まれています。

市の北部にかかる上信越高原国立公園の湯の丸高原は、レンゲツツジの大群落、コマクサ、アヤマメ、マツムシソウなど、多種類に及ぶ高山植物の宝庫で、フラワートレッキングに最適の花高原として親しまれています。また、高地トレーニング施設としても整備を進めており、既に利用を開始している一部の施設では、スポーツ選手たちが自らの力を高めるために練習に励んでいます。

歴史的には馬の産地として知られ、平安時代の信濃御牧（官牧）十六牧の中でも最も貢馬が多かったと伝えられており、中世には東信地方一帯を支配してきた海野氏をはじめ、望月氏、布下氏、諸沢氏によって統治されてきました。また、日本の道百選に選ばれた北国街道海野宿は江戸時代の面影を残し、現在では観光の要所となっています。

市花 レンゲツツジ

湯の丸高原のレンゲツツジ群落は、市の観光のシンボルともなっており、毎年多くの観光客が訪れます。
レンゲツツジ群落は、昭和31年に国の特別天然記念物に指定されています。



市木 くるみ

明治初めから導入され、大正時代には盛んに栽培されました。東御市は、雨が少なく南傾斜で日当たりのよい地形に恵まれ、栽培に最適な環境です。市内には原種木があり、一般家庭でも古くから見られる身近な木です。



市蝶 オオルリシジミ

名前のとおりオスメスともに羽の表面がルリ色の美しい蝶です。
近年では絶滅もしくは激減し、現在では、新潟県、長野県のごく限られた地域と熊本県にのみ確実な生息地が知られています。東御市の天然記念物にも指定されています。



市役所の位置（本庁舎）	東経：138度20分 北緯：36度21分 標高：海拔533m
面積	112.37 k m ²
人口／世帯数 (H31.4.1 住民基本台帳)	人口：30,168人 世帯数：12,068世帯

■東御市民憲章

東御市は、烏帽子、蓼科をはじめとした雄大な山並み、千曲の清流が織りなす豊かな風土と長い歴史に育まれた美しいまちです。自然の恵みをうけた郷土は、先人たちの英知とたゆまぬ努力によって築かれました。

わたしたちは、このまちに生きることに歓びと誇りをもち、未来（あした）に輝くまちをつくるため、ここに市民憲章を定めます。

- 1 自然を大切にし、環境と調和した美しいまちをつくります。
- 1 とともに支えあい、健やかで安心して暮らせるまちをつくります。
- 1 思いやりの心を持ち、子どもたちがのびやかに育つまちをつくります。
- 1 芸術や伝統に親しみ、文化の薫るまちをつくります。
- 1 活力ある産業を育み、若者がつどう豊かなまちをつくります。

平成 18 年 10 月 3 日制定

■市章



東御市の頭文字「と」をモチーフに、豊かな自然、人と人の鮮烈な出会いと合併による新市の融合を象徴しています。

橙色の楕円は太陽を、中心の青い弧は千曲川の流れを、そして空色の弧はさわやかな風を表しています。

■友好都市、姉妹都市

友好都市

東京都大田区

平成 4 年に大田区が区民休養施設の建設用地を決定したことがきっかけで、友好都市提携を締結しました。

毎年、9 月に東御市で開催する「巨峰の王国まつり」と、11 月に大田区で開催される「OTAふれあいフェスタ」では、住民同士が相互に参加し交流を深めています。

姉妹都市

アメリカ合衆国 オレゴン州マドラス市

マドラス市は、オレゴン州の中心的都市ポートランド市の南東約 250 k m に位置し、人口は約 6,000 人です。

標高約 700m の平坦な農村地帯ですが、郡の中心部であることに加え、幹線道路が交差していることから、小学校 4 校とミドルスクール、高校があり、生徒は合計で 2,700 人に及びます。



▲環境と調和した循環型社会を目指し、市有林の活用を進めています。市有林の木材を保育園の建築用材として活用する取り組みや、企業と連携した森林保全活動を推進しています。

本市の恵み豊かな自然環境を市民共有の財産として次代に継承していくために、市民一人ひとりが自然を愛し、親しみ、守り、育てることに努めるとともに、市民が潤いと豊かさを実感し、ゆとりある生活を送れるよう、農村環境や水辺環境の保全や整備を市民と行政が協力して取り組み、水と緑に包まれた魅力ある生活景観の形成による環境と調和したまちづくりを進めています。

さらに、市民と行政が互いに協力し合って、地球温暖化の防止やごみ排出量の削減、資源物のリサイクル活動を進め、循環型・低炭素社会の実現を目指しています。

I 豊かな自然と 人が共生するまち

○豊かな自然の継承と共生の実現

- ・市民・事業者との連携・協力による環境保全活動の実施
- ・不法投棄対策の実施
- ・市民との協働による特定外来植物対策の実施

○地の利を活かした新エネルギーの活用の推進

- ・エネルギー関連補助金制度の見直し
- ・新地球温暖化対策地域推進計画の策定



環境にやさしい次世代自動車の普及を図るため、電気自動車用急速充電設備を市公共施設（中央公民館）や道の駅「雷電くるみの里」へ設置しています。

○ごみの適正処理と減量・資源化の推進

- ・生ごみリサイクルシステムの適正な運営

Ⅱ

安全、安心の社会基盤が 支える暮らしやすいまち

身近な生活道路や幹線道路網の整備、公共交通の充実、上下水道等の社会基盤施設の整備に努め、住環境の質の向上による快適で住みよいまちづくりを進めています。

また、行政が行う防災・減災対策に加え、市民が主体となった防災活動を推進し、家庭、地域、行政が互いに協力しながら災害に強いまちづくりを進めています。

さらに、地域消防体制の充実や地域防犯活動や交通安全対策を推進するほか、消費生活の相談体制を充実させることで市民の生命や財産を守り、市民が安全に安心して暮らすことのできるまちづくりを進めています。



▲市防災訓練にあわせ、各区では自主防災体制の確認を行っています。



▲防災ラジオを活用して、市民へ行政情報や災害情報等を伝達しています。

○ゆとりある住環境づくりの推進

- ・空家等対策計画に基づく空家の管理、発生抑制及び利活用への取り組み

○安全・快適な道路環境の整備

- ・市道県東深井線の建設事業の促進
- ・道路ストック総点検結果等に基づく舗装・橋梁・道路付属物修繕

○公共交通の利便性の向上（交通システムの充実）

- ・定時路線バス及びデマンド交通の運行方法等の見直し



▲平成 27 年 4 月 1 日海野バイパス開通

○水道水の安定供給

- ・水道事業の包括的な民間委託の拡充

○下水道事業の経営基盤の充実

- ・下水道施設の統廃合事業の促進

○災害に強い地域づくりの推進

- ・常田地区等の雨水排水対策事業の促進

Ⅲ

子供も大人も輝き、 人と文化を育むまち

安心して子どもを産み育てることができ、環境を整えるとともに、子どもたちが健やかに成長できるよう、子育て家庭を支援する環境づくりを進めています。学校教育においては児童生徒の能力と個性を引き出し、児童生徒自らが人生を切り開く力を備えることができるよう、質の高い教育環境を整備するほか、学校・家庭・地域が連携することにより、まち全体で次代を担う人材の育成に努めています。

また、市民がいつまでも充実感や誇りをもつて暮らせるよう、生涯学習機能を強化するとともに、郷土の多彩な歴史的資源や文化財の保全・活用、郷土の伝統文化の継承等を通じた文化芸術及びスポーツの持つ、文化力あふれるまちづくりを進めています。



▲子育て支援センターでは、子育てに関する相談体制を整えているほか、様々なイベントを開催しています。

○子育て家庭への細やかな支援の充実

- ・子ども・子育て支援事業計画の策定

○より豊かな幼児教育・保育の実践

- ・信州型自然保育の推進
- ・保育園の空調設備整備（エアコン設置）

○安全・安心な子どもの居場所づくりと教育環境の整備

- ・和児童館の移転新築事業の実施
- ・児童館・小中学校の空調設備整備（エアコン設置）
- ・学校施設長寿命化基本計画に基づく計画的な事業の実施（エアコンの設置・トイレ改修）

○豊かな心と健やかな身体を育む教育の推進

- ・小中一貫（型）教育の充実
- ・小中学生の学力、体力、道徳力向上への取組み
- ・ICT 教育導入の検討

○人づくり、地域づくりにつながる生涯学習の推進

- ・地域づくり活動における教育文化活動支援
- ・若者がチャレンジする行動への支援

○芸術文化活動の推進

- ・地域の文化活動支援

○「する、みる、ささえる」スポーツ活動の推進

- ・スポーツ推進計画に基づく取組み
- ・スポーツに親しむ地域団体の育成
- ・各種競技のリーダー、指導者の育成



▲北御牧小中学校では、小中一貫教育を導入し、特色ある学校づくりを進めています。



▲本市は1市民1スポーツの実践と健康なまちづくりを目指している中、平成 26 年度からチャレンジデーに参加しています。

IV

共に支えあい、みんなが
元気に暮らせるまち

子どもから高齢者まで、市民一人ひとりの健康に対する意識を向上させるため、市民主体の健康増進活動を促進するとともに、すべての市民が生涯にわたっていきいきと健康に暮らすことができるよう健康づくりを推進しています。

また、安心して医療が受けられること、高齢者や障がい者（児）が生きがいを持って元気に暮らせることなど、子どもから高齢者まで誰もが健康で安心して暮らせるよう、保健・医療・福祉の充実に取り組んでいます。

さらに、市民一人ひとりの絆による心のかよいあうふれあい、助けあいを基本とした地域での助けあいのしくみを創り、みんなで支



▲東御市が運営する医療機関は、「東御市民病院」、「みまき温泉診療所」、「助産所とうみ」があり、安心して医療が受けられる体制を整備しています。

○生涯を通じた健康増進の推進

- ・第2次健康づくり計画（後期計画）、自殺対策推進計画の策定
- ・母子健康包括支援体制の充実（相談強化）
- ・健康づくり県民運動「信州ACEプロジェクト」と一体となった啓発推進
- ・高地環境を活用した運動による健康づくりの推進



健康関連事業に参加し、ポイントを集め、楽しみながら健康づくりに取り組んでもらえるよう、健康マイレージ事業「ずくだすポイントキャンペーン」を実施しています。

○地域医療体制の充実

- ・再編ネットワーク化の推進と運営形態の検討

○ひとり親・生活保護・生活困窮世帯の自立支援と生活の安定

- ・生活困窮者や引きこもりなどの相談業務の強化

○支え合う地域福祉づくりの推進

- ・支え合い台帳の作成支援と地域福祉活動の環境整備
- ・第4次地域福祉計画の策定

○介護予防（フレイル対策）の推

- ・フレイル予防の取組み強化

○地域包括ケアシステムの確立

- ・介護、医療、福祉の連携強化
- ・支え合う地域福祉の推進ネットワークの構築

V 地域の魅力を活かし、 活力とにぎわいを生むまち

本市の恵まれた立地条件と地域特性を活かし、農業では農産物の高付加価値化の推進、優良農地の保全、農業基盤の整備を図り、営農意欲の高い農家を中核として農業の維持発展を図っています。

また、商工業では雇用吸収力の高い企業の誘致や新たな産業機能の誘導を図り雇用の場の確保につとめるとともに、既存企業の活力向上を促進し、市内勤労者の雇用の安定を図っています。

さらに、特色ある農産物と観光産業との連携強化を図ることなどにより、人を誘い「住んでみたい」「住んで良かった」と実感できる市づくりを進めています。



▲市の主要観光地である湯の丸高原については、「湯の丸高原施設整備基本構想」に基づき、関係施設の整備を進めます。

また、高地トレーニング用プール施設の誘致活動を推進しています。

○東御ブランドの確立と特産品の振興

- ・ワイン用ぶどう苗木の安定供給体制の確立
- ・グローバルGAPの普及・支援
- ・6次産業化の取組みへの支援

○農地流動化の促進及び耕作放棄地の再生

- ・柰津御堂地区土地改良事業及び関連排水路整備事業の促進
- ・農地中間管理事業による担い手農家への農地の集積・集約化の支援



○商工業の支援と育成

- ・商工業振興のための創業・就業支援及び労働力確保対策事業

○U・Iターン移住者の誘導による定住の促進

- ・移住体験ツアー、短期移住体験の実施
- ・地域と連携した、空き家バンク制度の活用及び移住定住者受入れ体制の充実



○観光拠点の整備と情報発信の強化

- ・湯の丸高原屋内運動施設（特設プール）等の建設・運用実施

○地域資源を活用した体験型、滞在型観光の推進

- ・観光地域づくりの核となるDMOの人材育成及び支援
- ・観光2次交通社会実験事業（第3期）
- ・スポーツコミッションの設立
- ・スポーツ合宿の積極的な受入

VI 市民と共に歩む 参画と協働のまち

市民と行政が地域づくりの想いを共有して信頼関係を築き、市民や地域、事業者などの団体と行政が「自助・共助・公助」の互いの役割を果たしていく協働のまちづくりを進めています。

また、市政情報を積極的に提供し、市民と行政が情報を共有する開かれた市政を推進し、まちづくりへの積極的な市民参加を促進しています。

さらに、行政組織のスリム化や広域行政の推進、施策・事業の効率化及び財政力の強化を図るなど、自主・自立の持続可能な行財政運営を進めています。



▲広報活動を強化するため、平成 27 年 4 月から SNS の本格運用を開始し、市のイベント情報や行政情報等を発信します。

○協働のまちづくりの推進と担い手の育成

- ・市民活動団体の活動支援
- ・市民活動団体と行政が協働事業に取り組むための仕組みの検討



小学校区単位の地域づくりを進めています。
「田中地区地域づくりの会」、「しげの里づくりの会」、「柰津地域づくりの会」、「和地域づくりの会」、「御牧ふれあいの郷づくり協議会」が発足し、地域の皆さんが地域の課題解決や活性化に向けた取り組みを進めています。

←通学合宿の様子（しげの里づくりの会）

○効果的で持続可能な行財政運営の推進

- ・実施計画と緊密に連動した予算編成と、一般財源枠配分方式の継続

○広報活動の充実

- ・検索しやすいホームページ・一貫性のある情報発信

○人権意識の高揚と人権擁護の推進

- ・「平和と人権を守る都市宣言」に基づくまちづくりの取り組み
- ・「東御市人権施策の基本方針・基本計画」の次期計画に向けた各種調査の実施

■東御市の歩み

- 平成 16 年 ○旧東部町と旧北御牧村が合併し東御市が誕生（4月1日）
○東京都大田区と友好都市提携協定、災害時相互応援協定締結
- 平成 17 年 ○米・オレゴン州マドラス市と姉妹都市協定締結
○東御市農産物加工施設完成
○第1回東御市民まつり開催
- 平成 18 年 ○定時定路線バス、デマンド交通「とうみレッツ号」運行開始
○東御の日、市民憲章・市花・市木・市蝶を制定
○丸山晚霞記念館開館
- 平成 19 年 ○都市計画道路田中牧家線街路工事竣工
- 平成 20 年 ○「とうみ Sun ライズ ワイン・リキュール特区」に認定
- 平成 21 年 ○田中駅南口整備事業竣工
- 平成 22 年 ○助産所とうみ開所
○エフエムとうみ開局
- 平成 23 年 ○秋田県美郷町と災害時相互応援協定締結
- 平成 24 年 ○市役所新庁舎完成、新図書館開館
- 平成 25 年 ○東部子育て支援センター開所
- 平成 26 年 ○中央公民館増改築工事竣工
○市制施行 10 周年
○海野宿滞在型交流施設「うんのわ」オープン
- 平成 27 年 ○市道田中・西海野線「海野バイパス」全線開通
○「千曲川ワインバレー（東地区）特区」認定
- 平成 28 年 ○明神館リニューアルオープン
○東御市民まつりが「雷電まつり」へ改称して初開催
- 平成 29 年 ○湯の丸高原スポーツ交流施設竣工
- 平成 30 年 ○湯の丸高原スポーツ交流施設一部供用開始



▲安心してお産ができるまちを目指して、「助産所とうみ」を東御市民病院の敷地内に開所



▲湯の丸高原スポーツ交流施設の 400m トラック



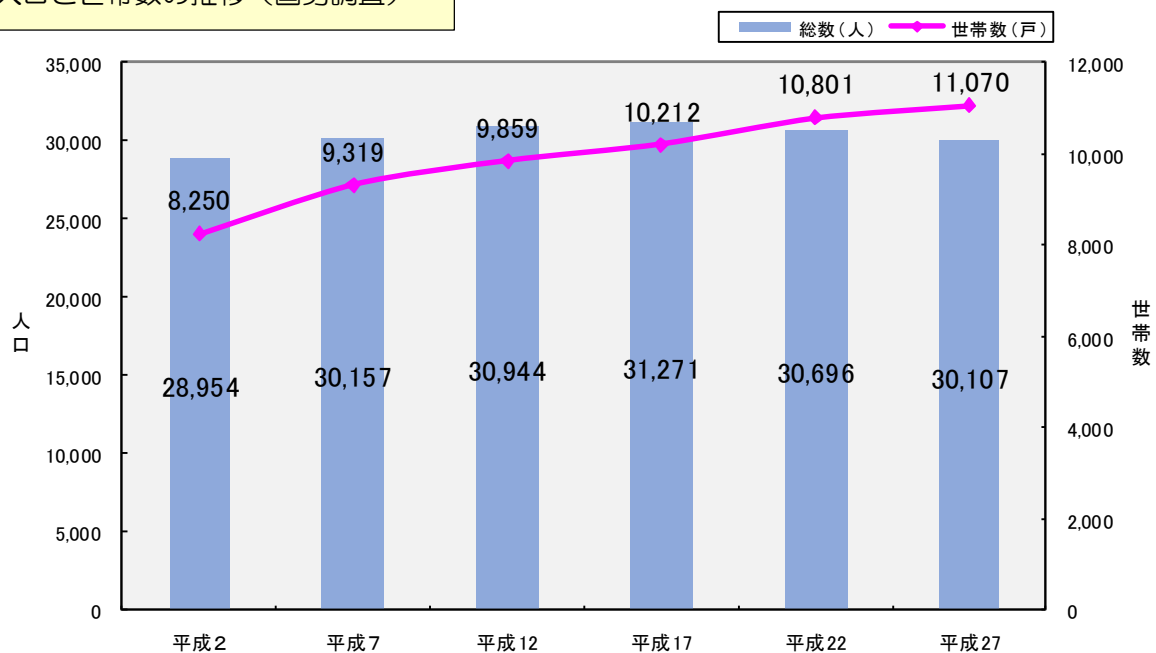
▲リニューアルオープンした明神館



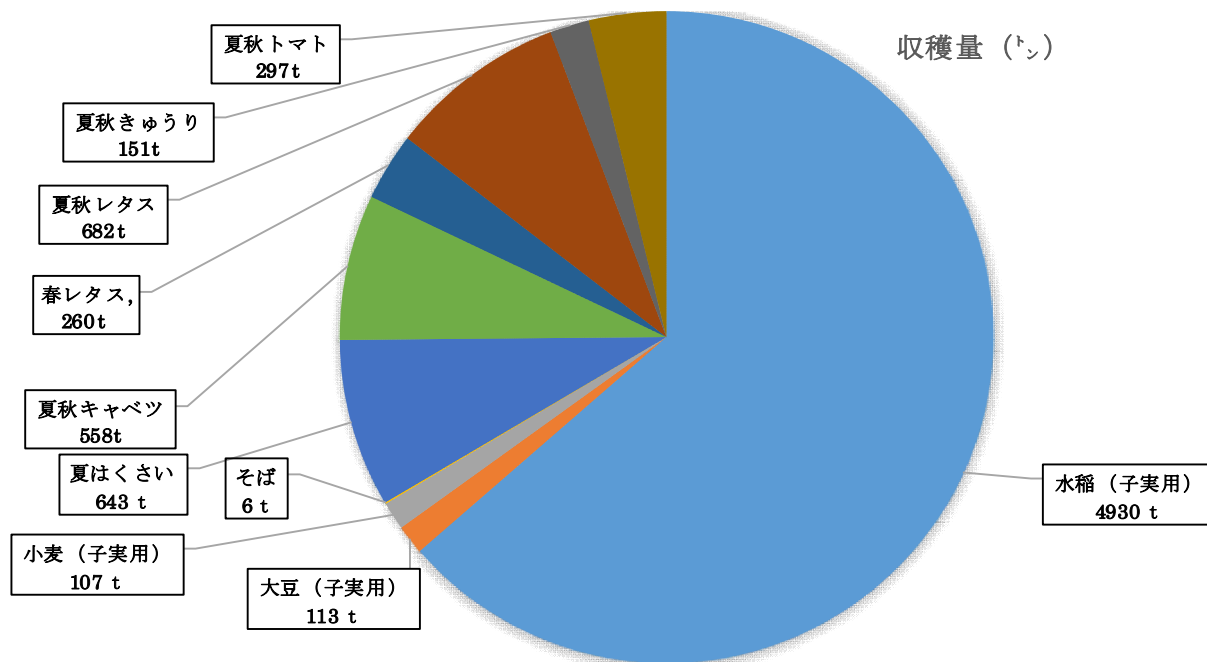
▲「千曲川ワインバレー（東地区）特区」認定

■統計資料

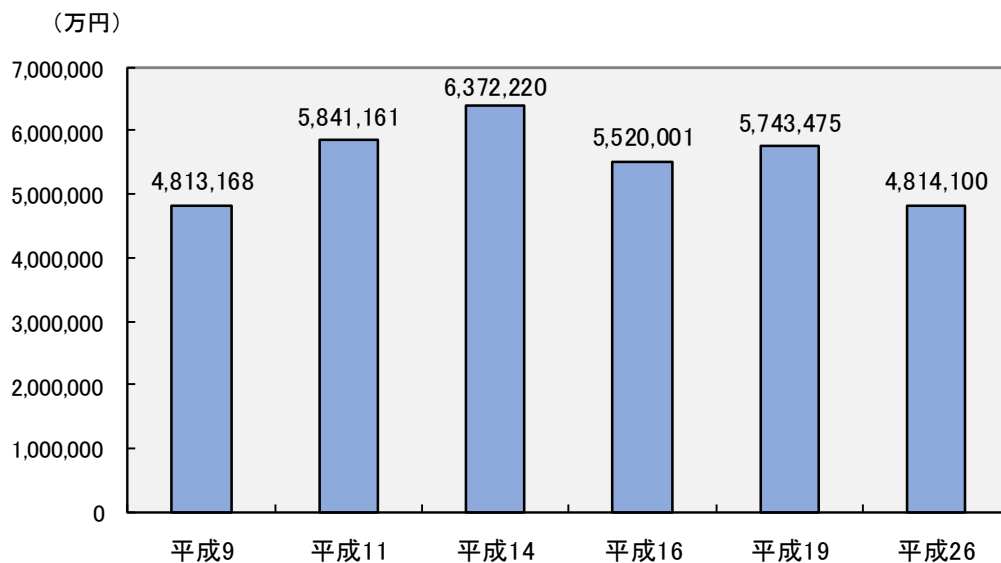
人口と世帯数の推移（国勢調査）



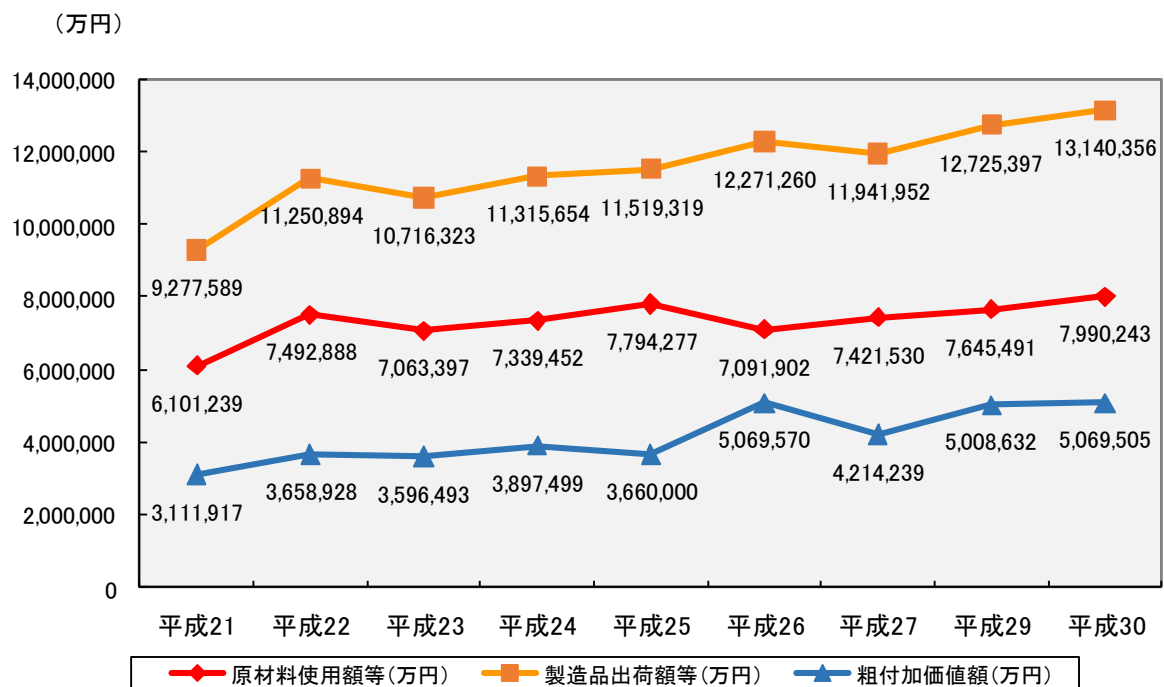
主要農作物収穫量（資料：H29～30（2017～2018）関東農林水産統計年報）



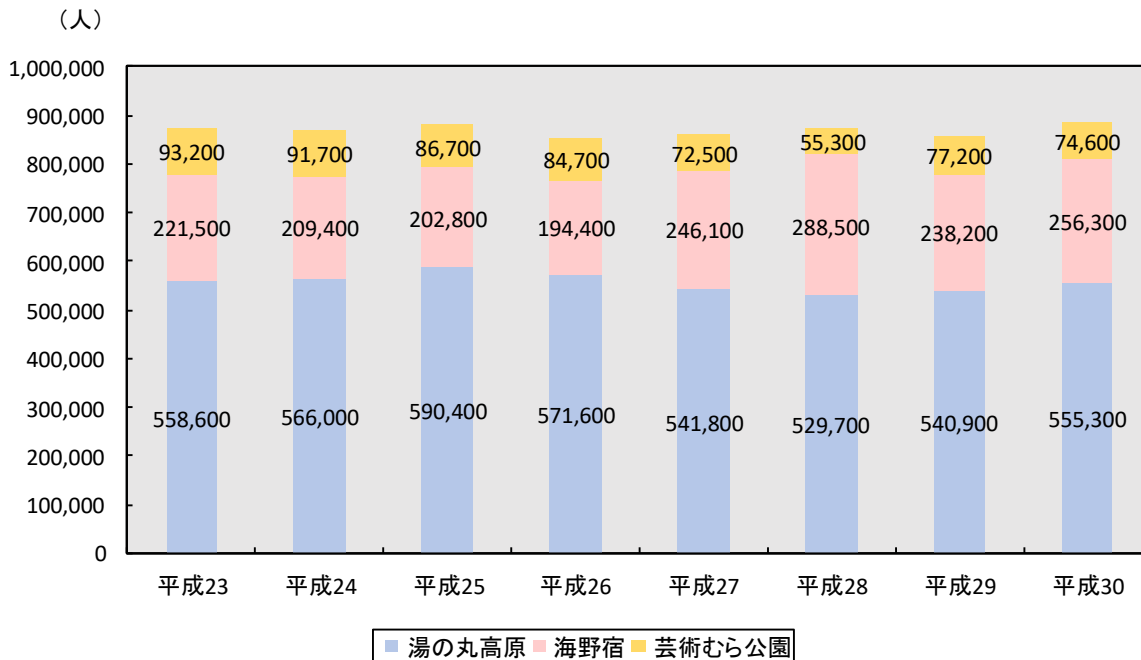
年間商品販売額（資料：商業統計調査）



工業製品出荷額等（資料：工業統計調査、経済センサス）



観光地来訪者の状況（資料：東御市の統計）



財政状況（平成30年度決算）

【一般会計、特別会計】

単位：万円

会 計 名	収 入	支 出
一般会計	155 億 1,255	150 億 3,366
国民健康保険	31 億 8,854	30 億 8,395
介護保険	27 億 5,960	26 億 9,725
地域改善地区住宅改修 資金等貸付事業	76	617
工業地域開発事業	1 億 5,030	1 億 5,030
後期高齢者医療	3 億 3,566	3 億 2,319

【公営企業会計】

単位：万円

会 計 名	収 入	支 出
水道事業	収益的	6 億 9,449
	資本的	6,361
下水道事業	収益的	13 億 8,033
	資本的	8 億 3,827
病院事業	収益的	19 億 150
	資本的	2 億 6,494

- ・市債残高 308 億 7,738 万円（一般・特別・企業会計）
- ・基金残高 51 億 708 万円（一般・特別会計）
- ・実質公債費比率 6.7%
- ・将来負担比率 58.9%

東御市合併の経過

